

関西学院大学 スカイセミナー

Sky Seminar



Vol 63 野外教育

今いる場所からの一歩、 野外教育がもたらす効果

「冒険とは、決して命を落とすことではない。今いるところから一歩踏み出す勇氣のことなのだ」。これは、冒険家河野兵市さんの言葉です。野外教育では、まさにこの「冒険」という言葉がキーワードです。野外教育は、日常から離れた非日常的な空間、自然で行われます。そこで一歩を踏み出し、不安や困難に立ち向かうことで、普段、気付かなかった日常のことや新たな自分を発見するといった経験ができます。それは家族や友人のことであったり、自分の弱さであったり、あるいは今まで気付いていなかった自分の強さであったりと様々で

す。そして、この野外教育は、子どもから大人まで、最近では、トップアスリートのチームビルディングにも活用されています。アテネオリンピックの柔道代表チームが山の中で野外教育に取り組んだのは有名な話です。柔道は個人競技ですが、その成果は大会での活躍に大きく現れる結果となりました。

しかしながら、冒険には少なからず危険が付きものです。自然の中にはたくさんの危険因子があります。そのため、それらを事前にうまくコントロールして、リスクをできるだけ低くすることが必要です。危険をつまくコントロールとして、リスクハイリターンを目指す、そのために行われているのがリスクマネジメントです。リスクマネジメントは一般に危険因子の発見・把握（このままにしておくと危ない因子を見つける）、危険因子の評価（この因子がどの程度危ないか判断する）、危険因子への対処（そのままにしておくか、回避するかなどの判断をする）といった流れで行われていますが、これらの能力を向上させる点でも、自然の中で行われる野外教育は効果的です。このような効果は、大人だけではなく子どもたちにも現れます。ある場面の危険因子を指摘する実験をキャンプ実施の前後で行ったところ、多くの子どもたちにもその数の増加が見られました。体験を積むことで、「こんなときは危ない!」と考える力が育った結果だと思っています。

近年、子どもたちの「ゆとり」が強調され、試練を与えたり、鍛えたりする場が少なくなつたと思います。ある研究では、自然環境が厳しいキャンプほど子どもたちに変化が生まれたと報告しています。子どもの成長にはむしろ、試練を多く与えてやるほうが良いようです。

ちょっと不安だけれど、今いる場所から一歩を踏み出して困難に立ち向かってみる。そんな勇氣を持つことが、今の子どもにも、大人にも必要なことだと思います。

甲斐 知彦

関西学院大学
人間福祉学部教授

（かゝともひ）

日本体育大学大学院修了。日本体育大学助手を経て、現職。専門は、野外教育、体育方法学、日本キャンプ協会調査研究委員会なども務める。現場では、ヴィッセル神戸Jr.、ガンバ大阪Jr.の育成キャンプなどさまざまなキャンプに取り組んでいる。最近の著書には、「キャンプ指導者入門」（共著、2006年）がある。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 人間福祉学部 教育学部（2009年4月 西宮校地に開設予定）

神戸三田キャンパス（KSC）
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
総合政策学部 理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、<http://www.kwansei.ac.jp> で御覧になれます。お問い合わせ・・・TEL:0798-54-6017（広報室）